

第46回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇二二年七月から二〇二二年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（横川寿美子委員長・酒井昴代・佐藤宗子・土居安子・水間千恵の各委員）が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一月一九日（土）午後二時一五分より、当学会第61回研究大会の席上にて行います。

二〇二二年一〇月

日本児童文学学会会長 宮川 健郎

第46回日本児童文学学会奨励賞

◇該当作なし

第46回日本児童文学学会奨励賞

◇該当作なし

第46回日本児童文学学会特別賞

◇西口拓子『挿絵でよみとくグリム童話』早稲田大学出版部 二〇二二年五月二〇日

【贈賞の理由】本書は、西洋文化の知識・情報が乏しかった明治・大正期におけるグリム童話の受容の在りようを、新旧のグリム研究、翻訳研究、挿絵・絵本研究の成果に照らし、独語・英語による幾多のグリム童話集／絵本と比較検討することで解き明かした力作である。挿絵に注目した詳細な考察と緻密な分析が、各翻訳者が底本としたテキストの特定に繋がり、岡本帰一ら挿絵画家が海外の挿絵を模写、改変、流用して日本人にわかりやすい作品紹介に努めた腐心の跡を浮かび上がらせる。受容研究、グリム童話研究、挿絵・絵本研究をはじめ、幅広い分野の進展に寄与する貴重な一冊である。

【受賞者の略歴】 神奈川県生まれ。東京外国語大学大学院博士課程修了。専修大学専任教員、コブレンツ・ランダウ大学客員研究員、カッセル大学客員教授などを経て、早稲田大学理工学術院教授。共著書に『グリムへの扉』（勉誠出版 二〇一五年）など。